

養殖衛生管理体制整備事業

兜森 良則、前田 穰、沢目 司、松田 忍

目 的

県内の養殖生産者等に対し、養殖衛生管理及び疾病対策に関する技術・知識の普及、指導等を行い、健全で安全な養殖魚の生産を図る。

材料と方法

1. 総合推進対策

養殖衛生対策を具体的に推進する上で必要な事項について検討する会議へ出席した。

2. 養殖衛生管理指導

現地を訪問し、関係者を参集して会議を開催した。

3. 養殖場の調査・監視

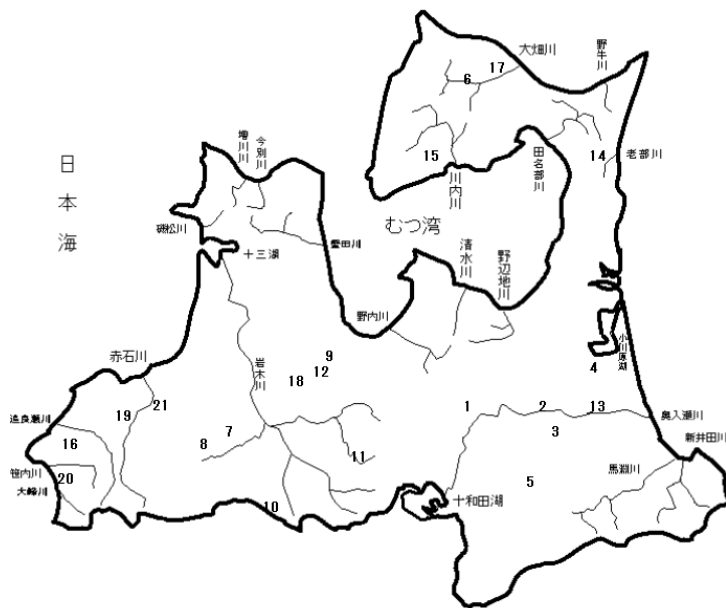
現地調査やアンケートを実施した。

4. 疾病対策

検査依頼のあった検体の魚病診断及び特定疾病、本県にとって重要な疾病について魚病検査を実施した。

5. 主な養殖生産地

図1のとおり。



No.	養殖魚種
1	ニジマス、イワナ
2	ニジマス、イワナ
3	ニジマス
4	ニジマス、コイ
5	ニジマス、イワナ、イトウ
6	ヤマメ、サクラマス
7	ニジマス
8	ニジマス、イワナ
9	ニジマス、イワナ、ブラウントラウト
10	ニジマス
11	ニジマス、イワナ、ヤマメ
12	ヤマメ、イワナ
13	ニジマス
14	サクラマス
15	ヤマメ、サクラマス
16	ヤマメ、サクラマス
17	ニジマス
18	ニジマス、イワナ、ブラウントラウト
19	イトウ
20	イトウ
21	アユ

図1. 主な養殖生産地

結 果

1. 総合推進対策

全国養殖衛生管理推進会議(表1)、更に、隣接する複数の道県等で構成される地域合同検討会(表2、3)に出席した。

表1. 全国養殖衛生管理推進会議

開催時期	開催場所	構成員(参加者)	議 題
3月6日	東京都 農林水産省	都道府県、農林水産省消費安全局、東北農政局、関東農政局、水産庁、内閣府沖縄総合事務所、(独)水産総合研究センター、(社)日本水産資源保護協会(111名)	①水産防疫対策の概要 ②水産防疫の枠組みの見直し ③水産防疫対策委託事業の結果概要 ④薬事関係のトピックス ⑤その他

表2. 北部日本海ブロック地域合同検討会

開催時期	開催場所	構成員(参加者)	議 題
11月5日	青森県 青森市	青森県、秋田県(欠)、山形県(欠)、新潟県、石川県、農林水産省、(独)水産総合研究センター増養殖研究所(10名)	①各県の魚病発生状況 ②話題提供 ・寄生虫のリスク管理に必要な技術 ・春季イナダの体表の傷 ・アカムツ種苗生産用親魚の眼球突出 ③総合討論

表3. 東北・北海道魚類防疫地域合同検討会

開催時期	開催場所	構成員(参加者)	議 題
11月11日 ～12日	福島県 猪苗代町	北海道・東北6県、新潟県、(社)日本水産資源保護協会、(独)水産総合研究センター増養殖研究所(19名)	①各県の魚病発生状況 ②講演・話題提供 ・我が国におけるIHNの現状と予防対策 ・日本在来淡水魚の北米5大湖由来VHSウイルス株(遺伝子IVb)に対する感受性 ・山形県のアユの魚病の現状と防疫対策 ・岩手県のヒラメ種苗生産で発生したアクアレオウイルス ・エドワジエラタルダが原因と考えられるコレゴヌスベルダ ③総合討論

2. 養殖衛生管理指導

全国養殖衛生管理推進会議で収集した魚病関連情報の他、養殖場等での調査結果と防疫指導の内容、魚病発生状況、水産用医薬品の適正使用等について、青森県養殖衛生管理推進会議(表4)や現地調査時に指導した。

表4. 青森県養殖衛生管理推進会議

開催時期	開催場所	構成員(参加者)	議 題
3月18日	青森県 青森市	青森県(水産振興課、水産事務所、水産産業改良普及所)、水産総合研究所、内水面研究所、栽培漁業振興協会、浅虫水族館、市町村、内水面漁協、養魚場(38名)	①養殖衛生管理体制整備事業の進捗状況 ②県内の魚病発生状況 ③魚病に係る情報提供 ④水産医薬品の適正使用

3. 養殖場の調査・監視

水産用医薬品の使用状況、養殖場等の飼育実態について、現地やアンケートによる調査、監視を行った。

4. 疾病対策

検査依頼のあったものについて魚病診断、更には特定疾病等の魚病検査を行い、疾病の早期発見、発生予防、まん延防止に努めた。

(1) 魚病診断

2014年の診断件数は、内水面では8件で、5魚種から7種類が、海面では4件で、3魚種から3種類の疾病が確認された(魚類防疫支援事業参照)。

(2) 特定疾病

① コイヘルペスウイルス(KHV)病は、岩木川で採捕した2尾を検査した結果、陰性であった。馬淵川では検体を採捕できなかった。

② サケ科魚類アルファウイルス（SAV）病は、県内2ヶ所のニジマス（各60尾）を検査した結果、陰性であった。

(3) その他

① アワビキセノハリオチス症は、県内4ヶ所の種苗生産施設で母貝として使用する予定の貝を検査した結果、陰性であった。

② アユエドワジエライクタリ症は、生産した種苗を検査した結果、陰性であった。

③ アユの冷水病は、県内河川へ放流予定の種苗を検査した結果、陰性であった。種苗配布時には種苗来歴カードが添付されていた。陽性は9月末の落ちアユが1河川で、蓄養中のものが1養魚場で確認された。

考 察

会議や研修会等で得られた情報は、魚病診断技術の向上及び指導の高度化に反映させるとともに、引き続き魚類防疫に関する情報提供及び魚病の発生防止、被害軽減に努める必要がある。